

第14回国際科学技術関係大臣会合について

”The 14th Science and technology Ministers’ Roundtable”

1．日 時：平成29年（2017）年10月1日（日） 13:15～15:20

2．場 所：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池） Annex1

3．出席者：世界25ヶ国の科学技術大臣等（日本を含む：別紙参照）

4．テーマ：「未来社会の実現に向けた科学技術イノベーションの役割

－ Society 5.0 で実現する人間中心の未来社会 －」

”The Role of Science, Technology and Innovation (STI) for Future Society

－ Human-Centered Society to Be Realized through Society 5.0 －”

<論点>

Society5.0 で示しているような未来社会像の実現は、貴国が直面している社会的課題の解決に貢献するものか。貢献するものである場合、その社会的課題はどのようなものか。

貴国が直面している社会的課題の解決を図るため、どのような国際協調が必要か。

5．結果概要

（1）松山科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、松山大臣から、

昨年4月にスタートした日本の科学技術イノベーションの5年間の総合的な政策を示す「第5期科学技術基本計画」において、人を中核に据え、より豊かな未来社会像「Society5.0」を打ち出していること。

各国のニーズや経済的・社会的事情により目指している未来社会像は様々であるが、科学技術の発展を活用し社会変化への適応を図ることは、先進国のみならず新興国、途上国においても共通のテーマであること。

未来社会の実現には、先進的な研究開発への取組だけでなく、その成果を各国・地域・社会各層が抱える課題に応じて利活用し、社会実装や普及を促進できるような制度や社会システムの変革が求められること。

グローバル化する世界の中で、全ての人々や国、地域に科学技術の恩恵が行き渡るには国際協調の下で各国がそれぞれの役割を担う必要があること。

について言及があった。

また、本会合では「未来社会の実現に向けた科学技術イノベーションの役割－ Society 5.0 で実現する人間中心の未来社会－」をテーマとし、参加各国における未来社会の実

現に向けた取組の経験を共有すると共に、参加国同士が相互に理解を深め、協働ネットワークを構築できるよう、活発な意見交換を行いたい旨の発言があった。

(2) 続いて、上山議員による進行のもと、本会合のテーマの論点に関し、出席国における取組等の意見交換が行われた。具体的には、

各国が掲げる社会課題は、例えば、過密な人口密度、都市部への一極集中、高齢化、貧困削減、食料の安定自給など様々であり、その克服に向けた取組が行われている。これらの課題に解決にあたって、科学技術イノベーション（の推進）は重要な位置づけであることが認識された。

例えば、ICTの普及や新たなサービスの提供に取り組んでいる国では、様々なデータを統合する仕組の構築やサイバー上のセキュリティ問題に対応していかなければならないことが挙げられた。さらに、科学技術の進展が発展途上の国では、最新の科学技術の導入が難しく、国の課題に応じて科学技術を応用して対応していかなければならないことなどが提起された。加えて、未来社会の実現に向けては、人的資本、特に創造力に富んだ次世代の研究人材育成、新技術の開発を担う人材開発の重要性も指摘された。

科学技術の進展のみで、人口減少と高齢化、都市と地方の格差等の課題が必ずしも解消されるわけではなく、ICT、ロボティクス、自動走行等の技術の活用にあたり、既存の枠組みの規制改革や条件等の緩和といった環境整備の検討が必要であることや、人の様々なニーズに即した取組を行うことによって、国の競争力を高めていくことが重要であるとの指摘があった。

各国の社会課題解決に向けた取組は、一国で行えるものではなく、各国の経験や優良事例の共有といった国際的な連携や協調が必要であるとの意見も紹介された。

(3) 上山議員からは、議論の総括として、政府は政策を立案するという点で社会のあらゆるセクターが連携していく上で、また政策的な一貫性を担保する上で、中心的な役割を果たすこと、新しい技術の開発やデジタル化の推進等にあたっては、各国対話を続けていくことが重要であることや、社会課題の解決を図るための国際連携としては、全ての人々が科学技術の恩恵を得られるために包摂的な協力が必要であることなどが述べられた。

(4) 最後に松山大臣から、参加各国に対して謝意が伝えられた。そして、本会合を通じて、各国が目指している未来社会の実現に向けて科学技術イノベーションが果たすべき役割や、国際協働の重要性等について認識を深めるとともに、参加国それぞれの事情を理解し合うことができたこと、さらに、Society 5.0 に関する共通の課題として、参加各国から高齢化や医療、食料、水、IT などへの取組が重要であると指摘があり、多くの国が抱える共通の社会的課題に向けて、参加各国間で様々な協調・協働が推進されると共に、そのための持続可能な基盤が強化されていくことを期待することが述べられた。

6. ワーキングランチの開催

松山大臣は、大臣会合に先立ち、大臣会合出席者のネットワーキングの場として、ワーキングランチを開催し、出席者と意見交換を行った。大臣会合における出席国との議論を活性化するために、上山隆大総合科学技術・イノベーション会議議員から、Society 5.0 の実現により我が国が目指している未来社会像について基調講演が行われた。

7. 二国間会談

松山大臣は、本会合に出席した以下の大臣等と二国間会談を行った。

ヴィダル高等教育・研究・イノベーション大臣（フランス）

ヴィダル大臣との会談では、科学技術・宇宙政策分野における日仏協力の重要性が再確認されたほか、科学技術イノベーションの推進において、人材育成や女性研究者支援、産学官連携が重要であることなどが共有された。また、松山大臣からヴィダル大臣に対して、来年3月に東京で開催予定の第2回国際宇宙探査フォーラム（ISEF2；アイセフ・ツー）への参加招請がなされたほか、自動走行システム大規模実証実験へのフランス企業からの参加について検討依頼がなされ、ヴィダル大臣からは、ともに前向きに検討する趣旨の返答があった。

カストロ国家評議会科学顧問（キューバ）

カストロ顧問との会談では、科学技術イノベーション推進のために、若手人材の育成が重要であること、2019年に国交90周年を迎えることを念頭に、引き続き両国間の交流を推進していくことなどが話し合われた。

第14回国際科学技術関係大臣会合出席者（結果）

平成29年10月1日（日） 13:15-15:20

【平成29年10月1日】

No.	国名	氏名	役職
1	ブルガリア	クラシミール・ヴァルチェフ	教育科学大臣
2	コート・ジボアール	アサン・チアム	高等教育・科学研究副大臣
3	キューバ	フィデル・カストロ・ディアス・バラルト	国家評議会科学顧問
4	エストニア	マイリ・レプス	教育研究大臣
5	欧州連合	ウォルフガング・ブルチャー	欧州委員会研究イノベーション総局副総局長
6	フィンランド	アニータ・レヒコイネン	教育文化省副大臣（事務次官）
7	フランス	フレデリック・ピダル	高等教育・研究イノベーション大臣
8	ハンガリー	サボルクス・タカクス	EU 担当大臣
9	インド	ギリッシュ・サーニ	科学・産業調査局局长 科学産業研究委員会次官
10	イラク	アブドゥルラザク・ジャリール・イーサ・アルハジェッサ	高等教育・科学研究大臣
11	日本	松山 政司	内閣府特命担当大臣（科学技術担当）
12	レソト	ジュアン・フェリックス・モラボ	通信・科学技術大臣
13	マレーシア	マディウス・タンガウ	科学技術・イノベーション大臣
14	ナイジェリア	クリストファー・オグボンニャ・オニユ	科学技術大臣
15	フィリピン	フォルトゥナート・ベナ	科学技術省長官
16	カタール	ムハンマド・アル・ハンマーディー	教育・高等教育大臣
17	ルーマニア	チプリアン・イオン・プレダ	研究・イノベーション省事務次官
18	セルビア	ブラッドミア・ポボビッチ	科学技術・国際協力担当政務官
19	シンガポール	リム・チュアンポー	科学技術研究開発庁(A*STAR)長官
20	スロベニア	トーマス・ボウ	教育・科学・スポーツ省政務官
21	スリランカ	スシル・プレマジャヤンタ	科学技術研究大臣
22	スーダン	スマーア・ムハンマド・アハメド・アブカ ーシャワ	高等教育科学研究大臣
23	タイ	アチャカ・シーブンルアン	科学技術大臣

24	英国	マーク・ウォルポート	英国政府科学技術顧問
25	ベトナム	トラン・クオク・カン	科学技術副大臣

【オブザーバ】

No.	国名	氏名	役職
1	オーストリア	ヘルベルト・ブッフバウアー	科学技術・経済相課長
2	ブルキナファソ	ラビウー・シセ	オウアガ大学学長
3	イラン	セイド・ムハンマド・タジ・アハマド	タビアット・モダレス大学学長
4	メキシコ	セルジオ・ヘルナンデス	国際科学技術審議会副ディレクター
5	オランダ	ジャン-ハイン・クリストフェル	大使館科学技術参事官
6	スロバキア	ウラジミール・コバチク	教育・科学・スポーツ省秘書室長
7	チュニジア	ケイス・ダルラギ	大使

第 14 回国際科学技術関係大臣会合の様子【平成 29 年 10 月 1 日（日）】



議長を務める松山大臣



意見交換の様子



記念撮影



フランス：ヴィダル大臣



キューバ：カストロ科学顧問